

長崎の教会をつくった大工道具

～世界遺産候補をつくり出した大工棟梁鉄川与助の知恵と工夫～

講師：山田由香里（長崎総合科学大学工学部建築学コース准教授）

講演会 2015年9月3日(木)午後6時～7時半(公開・無料)

関東学院大学金沢八景キャンパス 建築・環境棟 101 ホール

懇親会 7時45分～9時 9号館オリーブ 会費2,000円(学生無料)

講師略歴：関東学院大学工学部建築学科卒業、神奈川大学大学院博士前期・後期課程修了、平戸市（長崎県）教育委員会オランダ商館復元推進室・各務原市（岐阜県）文化財課技師を経て、2007年から現職。2009年 NPO 法人日本都市計画家協会楠本洋二賞最優秀賞受賞（受賞テーマ「平戸の町並み調査とまちづくり-オランダ商館復元、そして歴史環境再生へ」）、博士（工学）

講演の概要

2009年度から科学研究費を受けて、長崎の教会建築を明治末から昭和初期にかけて約30棟手がけた大工棟梁鉄川与助（1879～1976）の大工道具を調査する機会に恵まれた。長崎は、県下にある教会9件等を来年度の世界遺産登録を目指して調査を進めてきた。大工道具はその調査の中で発見されたものである。調査の結果、道具は鉋が主を占め、教会の窓枠や聖体拝領台の装飾を作り出した可能性の高いこと、鉄川の身近にあった大工道具に創意工夫を加えたこと、道具のひとつはフランス初のカタログ通販会社マニユフランス社製で仏人神父からの技術伝承も窺えた。これから世界遺産を目指す長崎の教会群がどのような道具によって作り出されたか、ご紹介します。

関連書籍『鉄川与助の教会建築—五島列島を訪ねて』（分担執筆、LIXIL 出版、2012）、『長崎の教会群とキリスト教関連遺産』構成資産候補建造物調査報告書』（分担執筆、長崎県、2011）

